

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	ゆりユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様お一人お一人の生活を一番に考慮し、その方に合った生活を維持していただけるよう職員みなでその場面に添う声掛けや対応を心掛けています。母体である病院とも連携しご利用者様の健康状態の把握や緊急時の処置等、連携しながら対応しています。コロナの関係でここ数年出来ていなかった高校の実習生受け入れも、昨年10月に1年生2名の受け入れが実現し面会が制限される中、孫やひ孫を思われるのか喜ばれているご利用者様も沢山いらっしゃいました。ゆりかもめの献立で使用する野菜は、町内の業者に発注し配達してもらっています。ご家族様にも今の現状の中で、できる限りご利用者様の情報をお伝えしご協力いただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院や病院職員寮に近接し緊急時や災害時の協力関係が構築されている。利用者の希望を取り入れたり、職員の意見で備品を購入したり、利用者に必要な物品の購入や職員の業務改善提案等が運営に反映されている。心身の低下予防のためゲーパ体操・介護予防体操・口腔体操・認知症予防体操・いきいき100歳体操などと、毎日実施しているラジオ体操・昇降運動とを組み合わせ実施している。おはぎ作り、干し柿作り、干し大根作り、居室前に自分の洗濯物を自分で干すなど利用者の残存能力を活かした支援を行っている。職員間の人間関係が良好で、職員が協力して利用者中心の考え方でチームケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様のペースで生活できるような自立支援や、地域や地域の方との関わりを大事にしなが実践につなげている。	理念の「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を常に職員の目に止まるように、玄関やユニット内に掲示し、理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ3年程はコロナ禍にある為、地域との交流が出来ていない。	コロナ禍で地域との交流は困難であるが、地元の高校の実習生を受け入れて、利用者にも職員にも良い刺激となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、事業所からの発信は出来ていないが、ゆりかもめ入居希望者の方のご家族様にはゆりかもめの現状をお話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の3年間は運営推進会議は実施していないが、会議が出来ない分の資料は(ゆりかもめの現状について)区長や民生委員の方に2ヶ月に1回の割合で送付している。	会議資料は区長、民生委員、役場の担当、地域包括支援センターに送付し、意見をもらえる体制を構築している。専門職以外の目線も貴重な意見として参考にしている。区長より地区の公園での花見を提案された事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場や社協にも資料を送付し、その都度報告や連絡を行い協力関係を築くよう努力している。	報告や連絡を行い、意見や提案をもらえる協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会において話し合った議事録や資料を回覧し、身体拘束や玄関の施錠をしないよう取り組んでいる。	施設長、管理者、ケアマネージャー、各ユニットリーダーで身体拘束適正化委員会を構成し、議事録と身体拘束に付随する資料も一緒に回覧し、現状把握と身体拘束をしないことの確認をしている。ユニット間は職員の付き添いで行き来している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待に関する研修資料等に目を通したり、常に感情的にならないよう心掛け防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご利用者様がいらっしゃる為、何かあれば話し合い支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や(現在はコロナ禍にある為、中の見学は出来ず)契約締結時の説明は十分に行い納得していただいた上で入居いただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、直接来所頂いた際やお電話にてご意見をお聞きし、施設長・管理者・ケアマネ・職員で情報を共有し問題解決に努めている。	利用者から自分の洗濯物は自分の部屋の前に干したいとの希望があり、洗濯した物を自分で干すようにした。現在外出制限があるため、買い物の希望を聞き職員が対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット増設に伴い集まったの夕方の申し送りが無くなり、各ユニットで実施しているが、必要に応じてユニットカンファレンスを行い意見を反映させている。	ユニットカンファレンスで職員から意見を聞いている。ユニットの備品購入に関する意見が多く運営に反映させている。業務に関する意見はリーダーを中心に見直し、改善を図っている。管理者が管理業務中心になったことでフリーで業務補助に入る体制になった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長く勤めている職員と新しい職員との給与水準があまり変わらず、やりがいや向上心が生まれにくい。努力しても報われない感がある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にある為、コロナになったら怖い、大変、という思いもあり研修等参加していない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にある為、交流等実施されていないが、分からない事や聞きたい事がある場合は電話をかけたたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の訴えやご希望がある場合にはその都度対応し、その他PT・NSも参加しての担当者会議でも、ご本人様が納得するまで話し合い関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居時に管理者・ケアマネが対応し不安な事や要望を聞き関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々ご本人様を観察・把握し、必要な支援がある場合はケアマネやNSに報告し対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の残存機能を見極め、出来る事はしていただき、出来ない事は一緒に行ったり、お手伝いするという関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話や来所された際に、ご本人様の状態を報告し、共にご本人様を支えていく事を協力していただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が続く面会や外出の制限があり、支援をする体制は整えているが、面会もガラス越しの状況でしか出来ず、なかなか支援するという所まで行かない。	他科受診は家族が対応している。家族との電話の取次や手紙等での関係継続を支援している。毎月発行のお便りの写真で利用者様の様子を伝え、家族に喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様の性格や相性を見極め、孤立する事がないよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からのご相談やご要望があればそれに応じて対応し、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望をお聞きしながらそのご意向の把握に努め、困難な場合にはその方の状況に合わせて検討・対応している。		コロナ禍で外出制限中であったが、主治医と相談して、帰宅欲求が強く精神的にも落ち込んでいた利用者の自宅への帰宅を支援した。思いや意向の表出が困難な利用者に対して、表情やジェスチャーで判断して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の情報を職員間で共有し、その方の暮らし方に合うよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で無理強いせず、その方の体調に合わせて対応し、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ケアマネ・NS・PT・管理者・担当職員が参加し主治医の意見も聞きながら(コロナの為、現在ご家族参加は出来ず)担当者会議を実施しケアプランを作成している。		介護計画はユニット職員全員に周知し、いつでも見ることができる。担当者会議で家族から足の力があまり落ちないようにという希望があり、昇降運動を計画に取り入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でご利用者様の日々の様子をケア記録で共有し、意見交換しながら見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況にその都度対応し、柔軟な支援に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様本人が安全・安心な生活を楽しみ事が出来るように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族様の希望を大切に、他科受診の際はご家族様の協力を仰ぎながら、担当医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での気づきや情報を看護師に伝え指示を受け、ご利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、安心して治療出来るよう、また早期に退院出来るよう、病院関係者と情報交換し日頃から関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約締結時、家族への十分な説明や話し合いを行っている。職員とも情報を共有しできる限りの支援に努めている。		昨年看取りをしている。重度化した場合本人・家族の希望・意向を踏まえ医師・職員が連携を図りながら安心して納得した最期が迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は看護師の指示のもとと行動し、母体の病院と連携し対応しているが昨今のコロナにより、研修や訓練の機会は少なくなっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。夜勤者対応の避難訓練も年1回行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けに関してはその方だけに聞こえるように対応し、耳が聞こえにくいご利用者様に対しては口の動きや指さし等で誘導している。		利用者が居室で過ごす時は自分なりに過ごしてもらい、居間で過ごす時は運動やレクレーション等の声掛けするも無理強いせず、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望を聞き、できる限り対応している。その他、自己決定や本人様のペースで出来るよう声掛け支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望があれば、出来るだけそれに添うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に応じて支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状態に合わせた食事形態に努め、お一人お一人の食事の好みや量に気をつけている。出来る事は声掛けしお手伝いしていただいている。		好き嫌いが激しい利用者には代替を用意したり特に問題が生じた時は職員で話し合い情報を共有し食事を楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の栄養状態や体調に合わせて対応。水分は脱水にならないようおやつ時・食事時・入浴後、又はご希望がある時に提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け見守りを行っている。介助が必要なご利用者様は介助し実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を確認し、必要に応じて声掛け誘導を行っている。見守り・介助が必要なご利用者様は、必ず職員が付き添い支援を行っている。		布パンツの利用者が数名いる。又立位困難な利用者でも職員2名対応でトイレでの排泄を支援している。夜間に於いても身体機能に応じ介助や見守り確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて看護師に相談・報告し対応。その他、日頃より水分・牛乳の摂取や体操参加を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けにて希望を聞き、入湯及びシャワー浴も個々に合わせて実施。拒否があるご利用者様には、管理者や看護師にも声をかけてもらい入浴を促している。		脱衣所・入浴中に得意の歌や昔話を引き出す努力をしている。仕事の話・子育ての話・得意の歌を歌う利用者もおり、入浴が楽しい時間になるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節に気を配り、季節に合わせた寝具にさせていただき、清潔保持にも努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全てを理解しているとは言い切れないが、看護師と共有しながら、その都度ご利用者様の状態に応じた服薬法や変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な手伝いや好きな事への声掛けを実施し、ご本人様の希望や気分転換をはかる等、状況に合わせて対応・実施している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にある為外出が出来ない状態ではあるが、ご利用者様の体調や天気を見ながら、外気浴や施設回りの散歩を行っている。		他科受診を兼ねてドライブしたりユニット間の知人の訪問を支援している。又園庭のシソの葉の摘み取りや干し柿作り・干し大根作り等を取り入れ気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金や預かり金は自室には置かず、施設の金庫で預かる形を取っているが、ご利用者様の希望時には使う事が出来るようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があれば電話を取り次いだり、手紙やはがきは自由に書いて頂き、その為の準備やポスト投函等支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や室温調整等十分に行い、施設内に季節の飾りや写真等掲載しこまめに張り替え、楽しんで頂くよう支援している。	どのユニットも空気清浄器を設置し定期的な換気採光・温度調節を行い共用空間の環境を整えている。ゆったりと他者との会話が楽しめるようにリクライニング椅子を数台設置したり、廊下の随所に椅子を置き日向ぼっこが楽しめるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル席もなるべく会話しやすい配置にし、玄関にもベンチを置いて、ご利用者様が思い思いに過ごして頂けるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の使い慣れた物を居室に置いたり、本人様の状況に応じて家具の配置を考慮し、過ごしやすいようにしている。	どの居室も使い慣れた寝具や家具が持ち込まれその人らしい居室作りがしてある。娘さんから送られた植木鉢を大事に筆筒の上に置いている居室もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂はご利用者様がわかりやすいように表示し、各居室の入り口にはネームプレートを下げご本人様が自分の部屋である事がわかるようにしている。			